

実施報告

釧路市立大楽毛小学校

* 学級数 7 * 児童数 227

支援員学校名	職名	氏名	専門分野
北海道釧路湖陵高等学校	教諭	有野 洋之	物理

【ねらい】 小学校第5学年「流れる川のはたらき」と小学校第6学年「土地のつくりと変化」の単元において、観察や実験の指導方法を身に付ける。

【日時】 7月25日 13:30～15:00

【場所】 大楽毛小学校理科室

【参加者】 15名

【内容】 ・流水の働きと土地の変化の関係について条件を制御して調べる
実験装置の使い方と実験のポイント
・モデル実験を通して土地のつくりと変化について推論させるポイント



【本事業の成果を活用した授業の改善】

本校では、支援員から学んだことを踏まえて、実験装置を作成しグループごとに実験を実施した。

1 流水の働きと土地の変化の関係についての条件制御

(1) 指導の工夫

- ・作成した「流水実験装置」を使い、児童の目の前で簡単に行える実験を実施した。グループ分作成したので、繰り返して何度も活動でき、たくさんの児童が観察・実験に直接参加することができた。



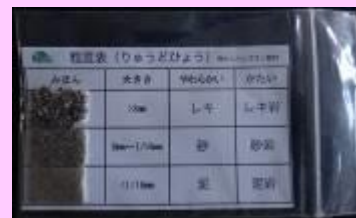
(2) 授業での児童の様子

- ・川の流れや内側外側の様子、上流と下流の様子を自分の予想と比べながら実験を行っていた。何度も繰り返し行えるので、日常生活で起こる水害の場面を想定したり、普段の日、大雨の日などを考えたりしながら、実験することができていた。
- ・6～7人で1つの装置を使えるので、外での実験よりも全員が参加でき、観察することもできていた。

2 モデル実験を通して土地のつくりと変化について推論させる

(1) 指導の工夫

- ・地層のつくりを学習する際に個人で粒度表を作成し、違いを目で観察したり、手で触ったりして、一人ひとりが観察出来るようにした。



(2) 授業での児童の様子

- ・粒の違いをルーペで見たり、触ったりしながら、一つ一つ確認して粒度表を作成していた。粒の大きさによって名前が違うので覚えながら作成できた。近くに地層を観察出来る場所がないため、個人の粒度表を持ちながら学習することができた。